

平成 24 年度 大田区区民協働推進会議（第四回）

次 第

平成 24 年 10 月 30 日（火）

18 時 30 分～20 時 30 分

本庁舎 902 会議室

- 1 地域力・国際都市担当部長 あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 地域力応援基金助成事業・ステップアップ・ジャンプアップ助成の審査
 - (1) 資料確認
 - (2) 報告
 - 書類審査 8 月 8 日（水）～8 月 29 日（水）
 - ・ステップアップ助成—8 団体 ・ジャンプアップ助成—3 団体
 - プレゼンテーション審査 10 月 13 日（土）
 - ・ステップアップ助成—8 団体 ・ジャンプアップ助成—2 団体
- 4 審議地域力応援基金助成事業の継続審査員の選出について
 - (1) 経過観察（報告）
 - (2) 継続審査員の選出
 - ステップアップ・ジャンプアップ助成・・・審査対象 11 団体（予定）
 - 継続審査員 2 名 — 面接日
 - （1 月 18 日（金）午前 10 時～午後 16 時頃まで（予定））
 - スタートアップ助成・・・審査対象 7 団体（予定）
 - 継続審査員 2 名— 面接日（1 月 16 日（水）午前 9 時～12 時）
- 5 高齢者や子どもの見守り・居場所づくり事例研究途中報告
- 6 その他
 - 被災地支援の報告
 - 第五回推進会議（事例研究の審議）の確認等
 - 開催日 11 月 29 日（木）本庁舎 902 会議室
 - 開催時間 18：30～20：30

【出席者】

青木委員 大塚委員 北間委員 中島委員 伊藤委員 田中委員 山本委員

地域振興部地域力・国際都市担当部長、区民協働担当課長、地域力連携協働支援員
区民協働担当 2 名

区民協働推進会議 （第四回）会議録 平成 24 年 10 月 30 日（火）

事務局 定刻になりましたので、第 4 回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。
本日、委員 11 名のうち 7 名ご出席していただいています。会議は有効に成立したことを
ご報告申し上げます。議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご
承知ください。初めに、地域力・国際都市担当部長からご挨拶を申し上げます。

部長 《部長あいさつ》

事務局 続きまして、会長にご挨拶をお願いいたします。

会長 《会長あいさつ》

事務局 ありがとうございます。この後は、会長に進行をお願いします。

会長 これより審議に入らせていただきます。「ステップアップ・ジャンプアップ助成」の審査
を行います。それでは、事務局より説明をお願いします。

—地域力応援基金助成事業 ステップアップ・ジャンプアップ助成の審査の部分は非公開—

事務局 それでは前回の推進会議以降に経過観察に行っていただきました委員の方に順番に経
過観察の様子やお気づきになった点などのご報告をお願いします。

—経過観察報告の部分は非公開—

会長 ありがとうございます。では、次の継続審査員の選出に移ります。事務局からお願い
します。

事務局 それでは継続審査員の選出に入りたいと思います。

会長 審査員の選出を行います。

—審査員選出—

次にテーマの審議に進みます。お願いします。

支援員 資料番号 2 をご覧ください。もう一度どういう流れでいくのかおさらいします。テー
マを「高齢者や子どもの見守り・居場所づくり」ということで、事例を調査し、地域団
体間の連携・協働を進めるための方策、ポイントを検討します。今、ヒアリング調査の
段階に入っています。前回の会議で予備的調査、アンケート調査のご報告をさせていた
だきました。アンケート調査で得られた事例のうち、特に参考になるものについてヒア
リング調査をしているところです。見守り・居場所づくりといっても多岐に渡っていま
す。そこで、最近、区内各地で増えている、「高齢者をはじめとする住民の集いの場（サ
ロン活動）」に焦点を当てて、調査しています。第五回でみなさんと審議していただきま

す。今回は経過報告です。前回から今回までの間に3件の調査を行いました。今回の区民協働推進会議では、調査の途中経過を報告します。

ヒアリング調査を行った事例の取り組み名と概要は、以下のとおりです。

・アキナイ山王亭

池上通りの大森柳本通り商店街振興組合が、無料お休み処として、元履物屋を改装して開設し、8月から運営しています。大森北を中心に、見守りキーホルダー登録事業などを展開してきた、おおた高齢者見守りネットワーク（みま～も）が、週1～2回、脳トレ、パソコン教室、レストラン、はつらつ喫茶など、元気な高齢者が集う事業で利用しています。毎日開いており、商店街にある、カドヤの従業員が鍵を開けます。誰でも、開いている時間は立ち寄ることができます。休んだり、おしゃべりをしたりできる場所になっています。週1～2回、見守りネットワークの取組みで優先的に使用されます。介護が必要にならない元気な高齢者でいてもらうのが見守りネットワークの活動です。取材に行ったときは脳トレをしていました。楽しい取組みがなされていました。

・はせさんず元気かい

常設ではなく、介護保険事業等を行うNPO法人たすけあい大田はせさんずの事業の一つとして、元気な高齢者のクラブ活動として行っています。月2回の定例会（太極拳、昼食会、絵てがみ）、月2回の英語サークルは、民間マンションであるパークハウス多摩川の集会室を借りて行っています。また、週1回の健康麻雀教室（池上会館にて）、月1回のカラオケ（民間の店舗にて）も行っています。隣近所ではない仲間が集まって一緒に楽しめる活動をしていて、もう10年ぐらい活動しています。元々は矢口小学校の青年の家で始めましたが、今はパークハウス多摩川の集会室を利用しています。取材では定例会に参加し太極拳、昼食会を経て絵手紙教室に参加しました。

・サロン You and I

南六郷二丁目団地自治会が、大家である独立行政法人都市再生機構（UR）から団地の集会室の提供を受けて、月・水・金の10～15時、喫茶や昼食ができる場を開設し、運営しています。コミュニティレストランといった感じです。メニューが3つあり、予約は必要ありません。高齢者事業として行っており、60～80歳代の入居者が中心に利用しています。また、認知症予防の講座に合わせて映写会を行ったり、会費制の会食会を行ったりしています。東京都の地域ささえあい体制作り事業にURが手を上げて、この団地がピックアップされて開設されました。団地の方からの差し入れもあり、和気あいあいといった感じでした。

それぞれに収穫のあった調査になりました。それらを踏まえまして比較表をまとめています。NPO法人が主体となっているものは、割と自分たちのメンバーで、活動をまわしている傾向のようです。いい活動ですが、地域への浸透はいま一つといった感じです。協働の形を進めているのは、「街の駅にしかまた」だと思えます。今後の協働のあり方を見ていくケースになると思えます。

虹の部屋も注目しています。コーディネーター養成講座でも現場研修の場の一つに取り上げています。コーディネーター養成講座のテーマは地域のつなぎ役をふやそうというものです。つなぎ役とは、地域のいろいろな団体に顔が利く人で、協働を生み出すことができる人です。虹の部屋の代表の白川さんは、とても魅力のある方で、いろいろな人が参加、協力しています。誰でも立ち寄れる常設の場ですが、毎日のように企画が午後に入っています。最近は通りすがりの人が入ってくるようになり、また民生委員の方も毎日立ち寄って情報交換をしています。介護情報などのちらしも置いてあります。もともと地域で活動されていた方々が立ち上げたので、地域のつながりを活かしながら浸透を図っているという点で注目しています。

今日は経過報告ということで中途半端なところがありますが、調査していく中で、今年度どこまで調査できるかを見極める必要があります。次回あたりに今年度の調査はどこまでという点をご相談させていただきたいと思っています。

会長 サロン You and I は六郷なので行ったことがあります。素人がやっているの、安くてきていると思います。心配なのは、資格がある者がやってくれるわけではないので、食べ物の取り扱いで、中毒などの事故が起きると怖いと思います。注意してやって欲しいと思っています。

ほかに何かありますか。無いようでしたら、その他に入らせていただきます。

被災地の支援の取組みについてお願いします。

課長《報告》

区内被災者支援の動きですか、サロン活動について 23年9月以降、被災者対象に毎月1回開催し、その他に毎月避難者が自主サロンを1回開催しました。7月から各分野の専門家による区内避難者訪問事業を再開し、区内避難者の孤立化防止を進めています。聞き書き・大田区民の会と協働して、区内避難者の聞き書きを開始。今回の大震災における避難者の経過や心情を記録にまとめ支援活動、防災に活かす予定です。毎月、区内被災者に東京都と区でそれぞれ郵便で情報提供。区内のお祭りやコンサート、水泳や語学教室、エセナ主催の講座などの招待情報も同封して送り、孤立化を防ぐ取組みをしています。

大田区被災地支援ボランティア調整センターの最近の動きについて

東松島市への支援ですが、9月末までに、ボランティアバスが141回、ボランティア数が2,616名、延べ7,747名で支援をおこないました。参加者の年齢は高校生の15歳から76歳です。ランチ交流会では、現地の方とボランティアと一緒に食事を楽しみました。松島マラソンでは津波の被害が大きかった野蒜が折り返し点になりました。沿道を花のプランターで飾りました。大田区からも72名が参加しました。沿道では地域の人も大田区を、和太鼓と大漁旗で応援してくれました。小規模仮設の交流会の計画が進んでいます。城南信金と一緒にやっている移動図書館の事が、読書週間に合わせて、朝日小学生新聞に載りました。7月以降、被災地でも昨年引き続き、看護師など専門家の協力で

被災者の訪問聞き取りを再開し、ボランティアニーズを把握するなど、実際の支援や関係機関につないでいます。高校生のボランティアが増加しています。11月の募集も満杯になりました。12月も募集します。女子の参加者が多いです。スクールバスの待合所がないところを大田区の大工さんたちが待合所を作る計画を立てています。11月中に完成予定です。宮城県の新聞にも取り上げられています。大田区内の団体が、観光や視察旅行を兼ねて、被災地東松島に足を伸ばし、地域の皆さんのお話を聞き、被災の様子を見学するなど防災学習をしようというケースが増えています。1～2時間程度の東松島見学でも、防災対策に役立ったという感想が多く、また東松島のお土産を買うなどの復興支援につながっています。10月は町会、地区民生委員協議会、商店街など。地元の人が案内して体験談を話してもらっています。現地ボランティアを対象に7月から防災塾基礎編を開講（4回6コマ）し、大田区の災害時支援の担い手として大田区の現状や、災害に関する知識習得など活躍できる人材育成をすすめました。7月28日には蒲田のまち歩きでフィールドワークを行い、最終回は、震災から1週間後の求められるボランティア活動を想定したワークショップ開催、9月に終了し29名に修了証を渡しました。来年度は基礎編、応用編を開講予定です。8月に、大田区立小中学校の校長を中心に99名が東松島市を訪問し、現地の小中学校での被災状況や復旧状況、3・11当日の避難所開設・運営、学校の教育活動再開について視察しました。次いで、10月には、区の幹部職員34名が東松島市を訪問し、ボランティア活動に従事、野蒜まちづくり協議会会長や市の幹部から3・11以降の被災や復旧の対応、物資の手配の知恵や被災という現実の中でのリーダーのあり方、職員の健康管理など大田区の防災体制づくりに活かすための貴重な経験を学びました。報告は以上です。

- 会長 ただいまの説明内容につきまして、質問・意見等がございましたら発言願います。大田区の支援はすごいです。他区ではあまりやっていないようですね。継続して支援して欲しいと思います。町会も支援として地方から食糧を買っています。被災地であつかう物品のパンフを持ってきて欲しい。PRはします。地域にお金を落としたいと思っています。
- 委員 10月に女性センター全国組織会議でエセナが特別賞をもらいました。
- 会長 感謝されていると思います。ほかに何かありますか。無いようでしたら、この辺で会議を終了させていただきます。
- 皆様、本日はありがとうございました。事務局お願いします。

部長 閉会あいさつ

事務局 これで、第4回 区民協働推進会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

《 終 了 》